

目的 食品中に含まれる脂質やタンパク質などの栄養成分が、それらを摂取する動物の成長に影響を与え、また、その血中成分の濃度を変化させることがよく知られている。そこで、青年の栄養状態を把握するために、血清中の総タンパク質、アルブミン、カルシウム、無機リン、リン脂質濃度、鉄および不飽和鉄結合能を測定した。

方法 大阪市内の大学生男子58名(19~25歳)、女子45名(19~22歳)の早朝空腹時血清を検体とし、総タンパク質、アルブミン、カルシウム、無機リン濃度を比色法によって測定した。グロブリン濃度は総タンパク質とアルブミン濃度との差とし、A/G比を求めた。リン脂質は酵素法で測定した。また、鉄の栄養状態をしらべるために、鉄および不飽和鉄結合能を測定し、トランスフェリン飽和率を求めた。

結果 血清中の総タンパク質およびアルブミン濃度はそれぞれ男子 8.0 ± 0.5 mg/dl, 4.7 ± 0.3 mg/dl, 女子 7.7 ± 0.3 mg/dl, 4.6 ± 0.3 mg/dl であった。また、A/G比は男子 1.4 ± 0.2 , 女子 1.5 ± 0.2 となり、両者間の差は認められなかった。カルシウムおよび無機リン濃度は男子 10.6 ± 1.1 mg/dl, 3.2 ± 0.4 mg/dl, 女子 10.3 ± 1.4 mg/dl, 3.3 ± 0.3 mg/dl で、いずれも日本人成人の正常値の範囲内であった。リン脂質濃度は男子 192.4 ± 29.1 mg/dl, 女子 199.5 ± 26.4 mg/dl であった。血清鉄は男子 122.8 ± 39.1 μ g/dl, 女子 99.5 ± 37.9 μ g/dl, 不飽和鉄結合能は男子 151.4 ± 42.2 μ g/dl, 女子 199.9 ± 68.1 μ g/dl であり、前者は正常値と比べて高い傾向がみられ、一方後者の男子は低いことがわかった。トランスフェリン飽和率は男子 44.8 ± 14.1 , 女子 33.2 ± 14.1 で正常範囲内であるが、鉄欠乏限界値の16以下が少数ではあったが存在した。